

令和5年2月7日
健康福祉局

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和5年第4週 令和5年1月23日(月) ～ 令和5年1月29日(日)

今週： 令和5年第5週 令和5年1月30日(月) ～ 令和5年2月5日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	① 陽性者数	① 総数	3,855人	2,632人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	3,301人	2,212人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	554人	420人	↓		
	② 対人口10万人（総数）	250.3人	170.9人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③ 前週との増加比（総数）	0.64	0.68	↑	18.0	令和4年第1週	
④ 陽性率 ^{※3}		34.3%	26.4%	↓	64.3%	令和4年第30週	
医療提供体制	⑤ 入院患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	175人	110人	↓	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	36.1%	22.7%	↓	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥ 重症患者（陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	9人	4人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	13.0%	5.8%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することいたしました。

<変異ウイルス検出状況>

川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関のゲノム解析によって確定された件数

系統		前週	直近 1 週間	累計
		R5. 1/23 - R5. 1/29	R5. 1/30 - R5. 2/5	R3. 3/11 - R5. 2/5
アルファ株		0	0	203
デルタ株		0	0	626
オミクロン株	BA. 1系統	0	0	581
	BA. 2系統	2	4	519
	BA. 2. 75	(2)	(4)	(35)
	上記以外BA. 2	(0)	(0)	(484)
	BA. 4系統	0	0	8
	BA. 5系統	15	46	830
	BF. 7	(2)	(8)	(31)
	BQ. 1	(11)	(10)	(56)
	上記以外BA. 5	(2)	(28)	(743)
	XBB系統	0	1	1
	XBC系統	0	1	1

※令和 5 年 2 月 7 日公表分から、BA. 2. 75、BF. 7、BQ. 1、XBB 系統、XBC 系統の件数を新たに掲載しております。

<評価> 令和5年第5週（令和5年1月30日～2月5日）

令和5年第5週（今週）は、陽性者総数については令和4年第52週より6週連続して減少しています。前週との増加比は第51週より7週続けて1.0を下回っています。入院患者数は、令和4年第52週より6週続けて減少しています。入院中の重症患者数は前週9人から今週4人と減少し、指標としている数値は前週との増加比が前週0.64から今週0.68に若干増加したのを除き、すべて減少となっています。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 医療機関から報告された陽性者数は、昨年第43週2,676人から第50週11,814人まで8週連続して増加しましたが、第51週11,693人、第52週9,618人、令和5年第1週8,719人から、第2週6,937人→4,987人→3,301人、そして第5週（今週）は2,212人と7週連続して減少しています。
セルフテスト陽性者数は、第42週378人から第50週2,643人まで8週連続して増加し、第51週2,560人、第52週2,686人、令和5年第1週3,166人と再び増加傾向となった後、第2週1,873人から、第3週1,012人→554人、そして第5週（今週）は420人と4週連続して減少しました。
医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第43週3,126人から第50週14,457人まで8週連続して増加しましたが、第51週14,253人、第52週12,304人、令和5年第1週11,885人から、第2週8,810人→5,999人→3,855人、そして第5週（今週）は2,632人と6週連続して減少しました。
- ② 対人口10万人あたりの陽性者数は、第42週167.6人から第50週938.8人まで8週連続して増加しましたが、第51週925.5人、第52週799.0人、令和5年第1週771.8人から、第2週572.1→389.5人→250.3人、そして第5週（今週）は170.9人と7週連続して減少しています。
- ③ 前週との増加比は、第44週1.73から第49週1.09まで5週続けて減少傾向、第50週は1.22と増加しましたが、第51週は0.99と再び減少に転じ、さらに9週間ぶりに1.0以下となり、第52週は0.86と2週連続して減少し、かつ2週連続して1.0を下回りました。令和5年第1週は0.97と増加に転じましたが、その後第2週0.74→0.68→0.64、そして第5週（今週）は0.68と若干の増加がありますが、1.0以下は6週間連続しています。
- ④ 検査陽性率は、令和5年第1週60.4%からは、第2週49.3%→43.7%→34.3%、そして第5週（今週）は26.4%と4週連続して減少となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日2月5日現在>

- ⑤ 令和4年の入院中の患者数は、第1週23人から毎週増加、第7週335人をピークとして第24週24人まで減少しました（第6波）。第25週41人から再び毎週増加し、第31週368人をピークとしてその後第43週61人まで、12週連続して減少しました（第7波）。第44週122人から第51週315人まで8週連続して増加しましたが、第52週289人と9週間ぶりに減少に転じ、令和5年第1週274人から、第2週256人→223人→175人、そして第5週（今週）は110人と6週連続して減少しています。
- ⑥ 入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第24週4.9%まで減少しました（第6波）。第25週から毎週増加し、第31週75.9%をピークとしてその後第43週12.6%まで12週連続して減少しました（第7波）。その後第44週25.2%から第51週64.9%まで8週連続して増加しましたが、第52週に59.6%と9週間ぶりに減少に転じ、令和5年第1週56.5%から、第2週52.8%→46.0%→36.1%、そして第5週（今週）は22.7%と6週連続して減少しています。
確保病床数は現在合計485床です。
- ⑦ 令和4年の重症入院患者数は、第1週は0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加してピークとなり、その後減少が続き第21週から第25週は重症入院患者0人が5週連続しました（第6波）。しかし、第26週から再び増加が続き、第32週14人となりました。第33週からは毎週減少し、第40週から第43週の4週間は1人となりました。（第7波）。第44週・第45週の3人から、第46週

は1人と減少しましたが、第47週・第48週は4人、第49週は11人と増加した後、第50週10人、第51週7人、第52週5人と3週連続して減少しました。令和5年第1週は10人、第2週9人、第3週13人と増加傾向にありましたが、第4週（前週）9人、第5週（今週）4人と減少しています。

令和4年の重症病床使用率は、第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第14週2.9%まで減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。しかし第26週2.9%から増加が続き第32週の20.3%を第7波のピークとして減少し、第40週から第43週は1.4%となっていました。第44週・第45週は4.3%と増加し、第46週は1.4%と減少しましたが、第47週・第48週は5.8%、そして第49週は15.9%と増加した後、第50週は14.5%、第51週は10.1%、第52週は7.2%と3週連続して減少しました。令和5年第1週14.5%から、第2週13.0%→18.8%→13.0%、そして第5週（今週）は5.8%と減少傾向にあります。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株について現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっていますが、BA.2、BA.5だけではなく、オミクロン内でのいくつかの系統が検知されるようになってきました。そこで、令和5年2月7日公表分から、

- ・BA.2系統に関してはBA.2.75およびそれ以外のBA.2、
- ・BA.5系統に関してはBF.7、BQ.1、およびそれ以外のBA.5、
- ・XBB系統
- ・XBC系統

の検知件数を新たに掲載することにしました。その他新規のウイルスが出現すればこれに加えていくこととなります。

なおこれらの件数は検体が得られた週ではなく、分析結果が得られた週となります。

第4週（前週）は、BA.2系統2件中BA.2.75が2件。BA.5系統15件中BF.7が2件、BQ.1が11件、それ以外のBA.5が2件でした。

第5週（今週）は、BA.2系統4件中BA.2.75が4件。BA.5系統46件中BF.7が8件、BQ.1が10件、それ以外のBA.5が28件。XBB系統が1件、XBC系統が1件でした。

令和4年の最終週である第52週の感染の状況を示す諸項目の数字、入院患者数、重症入院患者数は、セルフテスト陽性者数および検査陽性率を除き、すべて減少傾向となっていました。令和5年第1週は、陽性者総数は減少（医療機関報告分は減少、セルフテスト陽性報告は増加）し、入院中の患者数も2週連続して減少しているものの、重症入院患者数は再び増加に転じました。第2週はすべての指標が減少となり、第3週は陽性者総数、入院中の患者数等の指標はさらに減少しましたが、入院中の重症患者数と病床使用率がやや増加しました。第4週（前週）は、再びすべての指標が減少となりました。第5週（今週）は、前週との増加比が第4週（前週）0.64、第5週（今週）は0.68と若干の増加がありましたが、その他の指標はすべて減少となっています。

昨年末より現在にかけて、本市での新型コロナウイルス感染症は減少が続いていますが、その動きについては引き続き注意をしていく必要があります。いわゆる第8波では、全国的に死亡者数の増加がみられているところですが、川崎市では際立った増加はみられておりません。重症者や亡くなられた方の多くはワクチン未接種あるいは接種回数不足であり、特に高齢者の方へのワクチン接種は強く勧められるところです。

市内のサーベイランスからは、大きな数値ではありませんがインフルエンザの増加がみられています。インフルエンザも新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、

閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。

マスクを着ける、着けないの議論が、盛んにおこなわれていますが、感染のリスクがほぼない場面では着ける必要はない、リスクの低そうな場面では外すことも可能、リスクの高そうな場面ではできれば着けたほうが良い、リスクが明らかにある場面では必ず着ける、という考え方ではいかがでしょうか。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要です。かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。